

国際開発学会第19回 春季大会「公開プレナリーセッション」

日本はどのようにして難民を受け入れるべきか：国際開発における難民支援の位置づけ

1. 概要

2015年にシリア難民など多くの避難民がヨーロッパを目指したことが広く報道されました。そしてヨーロッパのどの国も、多かれ少なかれ、避難民を受け入れました。シリア難民の多くはトルコ・レバノン・ヨルダンなどの周辺国へ逃れており、2015年にヨーロッパへ到達した避難民約100万人は、人口約600万人のレバノン1か国で受け入れたシリア難民とほぼ同数です。他方、2017年ミャンマー国軍の襲撃で新たに70万人のロヒンギャがバングラデシュへ逃れ、400万人ものロヒンギャ難民が世界中にいるとも言われています。

国際社会のリーダーの一員として、日本はより広く難民を受け入れられないでしょうか。難民受け入れはグローバル共生の一環として、国際開発学会に突き付けられた課題と言えます。このセッションでは、難民課題の現状、日本での難民支援の実例を学んだ後、私たちに何ができるかを考えます。

2. 構成

司会 山形辰史（国際開発学会 会長）

講演1 難民課題の現在：難民は日本を救えるか？ 佐藤安信（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

講演2 日本の難民受け入れの現状 石川えり（認定NPO法人 難民支援協会 代表理事）

総合討論

3. 日時・会場

日時：6月2日（土） 16:45～18:15

会場：聖心女子大学4号館 3階ブリット記念ホール

4. 参加費

無料



写真提供：大橋正明

5. 備考

国際開発学会は、同日、午前9時半から聖心女子大学グローバル共生研究所において、春季大会を実施します。会員には既にご案内済みですが、非会員の方々も、当日5000円（学生3000円）の参加費をお支払いいただければ、上記のプレナリーセッション以外のセッションにもご参加いただけます。春季大会のプログラム等の詳細については、以下のサイトをご覧ください（<https://www.jasid.org/conference>）。

主催：国際開発学会

共催：聖心女子大学グローバル共生研究所、東京大学大学院総合文化研究科持続的平和研究センター